

強制収容所の解放を第一に願う
——金正日死去に伴う NO FENCE 声明——

金正日が亡くなった。北朝鮮の人権改善、その根幹である強制収容所の廃絶を求めてきた NO FENCE（北朝鮮強制収容所をなくすアクションの会）として、この機会に、以下のことを訴えたい。

一) 北朝鮮の民主化、人権の回復は、強制収容所の廃絶から始まる。

強制収容所は北朝鮮人民の恐怖の的である。金日成・金正日親子の体制に反対したり、彼らを誹謗すると、裁判もなしに、家族ぐるみ収容し、強制労働の末、死に追いやられるからである。全国の山の中に十数か所あると見られる強制収容所がなくなれば、北朝鮮の人々は勇気を持って発言し、行動に立ち上がることができる。

二) 強制収容所の廃絶から着手することは難しいことではない。

（1）北朝鮮は国際人権規約〈自由権規約〉の加入国であり、（2）国連はここ数年間強制収容所を含む人権改善の総会決議を北朝鮮に対し行っており、〈3〉世界の主要人権NGOも強制収容所を根幹とする北朝鮮の人道犯罪を阻止する国際的な連合（ICNK）を本年9月8日に結成している。

ただ、中国が上記の国連総会決議に反対し、北朝鮮の体制を支えている障害がある。しかし、金正日亡き今、この障害を克服する条件が出てきた。中国が北朝鮮を改革開放に導きたいなら、それを阻んできた強制収容所の廃絶が必要であることに気づくべきである。ナチの強制収容所に匹敵する北朝鮮の強制収容所を、金正日亡きあとも擁護するなら、中国は世界の指弾の的となることを知るべきである。

三) 同時に二つの危険性もある。

金正日の死は強制収容所廃絶にとって有利な事態であるが、世界の認識が遅れると、次のような危険性があることも指摘したい。

万が一有事の際に収容者〈20万人以上〉が証拠隠滅のために虐殺される恐れがあり（収容所体験者の証言）、また一般市民で有事の際に抹殺される対象者が〈十号対象〉という呼称で事前にリストアップされているとの情報もある。

金正日の死を迎えたこの機会に、この強制収容所問題についての認識を高めていただきたい。金正日が最も恐れていたことは、強制収容所の露見であった。その重しが取れたのである。

2011年12月19日

NO FENCE 〈北朝鮮強制収容所をなくすアクションの会〉